



岡田 康司

地域資源

① 地域資源  
② 地域の自主防災組織

**問** 能勢町観光物産センターの来客者数を問う。

**答** 令和6年度の平日は、年間約11万9000人、1日平均約56人。また、土日祝は、年間約12万7000人、1日平均約110人の来客数である。

**答** ここ数年出荷量は減少し、10ヶ月前後で推移。5年ほど前からの立ち枯れ病問題等を調査し、対策マニュアルをまとめている。また苗木の購入者にアンケート調査をした。現在、物産センターでは銀寄栗を扱った加工品等に取り組んでいる。

**問** 能勢町観光物産センターの平日と土日祝とで野菜の出荷量の調整をされているか問う。

**答** 出荷調整は行わず、生産者が経験で調整。加工施設は今後検討。若手確保や出荷体制維持に取り組む、観光拠点化を考えている。

地域の自主防災組織

**問** 地域の自主防災組織設立の進捗よく状況を問う。

**答** 現在15地区で設置、その他3つの区から相談がある。

**問** 各地区が現在取り組んでいる、防災・避難訓練や防災教育の実施状況を問う。

**答** 設置区においては、年に1回以上防災に係る訓練を実施し、依頼があった場合に、防災担当が出演、防災に係る講演等を実施している。

**問** 能勢町の特産品栗（銀寄栗）の現状とブランドとしての今後の展開を問う。

**答** 設置区においては、年に1回以上防災に係る訓練を実施し、依頼があった場合に、防災担当が出演、防災に係る講演等を実施している。



川口 省子

下水道事業

① 下水道事業  
② 救命救急体制および環境整備  
③ 林野火災警報

**問** 下水道事業を開始した経緯と当初の計画地域を問う。

**答** 本町が都市計画区域に入り、市街化区域の下水道整備を開始。西地域を公共下水道事業、東地域を農業集落排水事業として当初計画していた。

**問** 現在の合併浄化槽、公共下水、農業集落排水、単独浄化槽、し尿汲み取りの割合を問う。

**答** それぞれ52%、24%、17%、45%、17%、その他0.5%である。

**問** 下水道未整備地区の具体的方針について問う。

**答** 下水道整備は第5期までとし、その後は合併浄化槽を促進していく。

**問** 現在の補助制度だけで合併浄化槽への切り替えが進むと見込んでいるのか。

**答** 現在の補助制度に加え、他の補助制度も検討している。

**問** 救命救急体制および環境整備

**答** 現在の補助制度に加え、他の補助制度も検討している。

**問** 救命救急体制および環境整備

**答** 救命救急体制については、救急車到着まで時間を要する東地域のふれあいプラザやおか防災コミュニティセンターなど、AEDを屋外に設置し、夜間でも使用可能なものを増やしてはどうか。

**問** 救命救急体制および環境整備

**答** 現在、町内6か所の駐在所への設置に向け協議をしている。その状況を踏まえ検討していく。

**問** 救命救急体制および環境整備

**答** 夜間使用可能なものも分かるように、能勢町独自のAEDマップを作成を

**答** 駐在所への設置ができたタイミングに合わせて周知をしていきたい。

**林野火災警報**

**問** 林野火災警報がLINEで周知されていることや、吹田の指令センターからの発令について、本町の考えを問う。

**答** 当面は即時性と多くの方にお知らせするためLINEで周知し、能勢町独自で判断できるものも含め、一年ほど状況をみたと上で、今後検討していきたい。

